

2012年3月期第2四半期決算説明会

東プレ株式会社



2011年12月2日

東証第一部【証券コード 5975】

2012年3月期第2四半期決算概要

取締役総務人事部長兼IR室長 露木 好則

業績概要

- 売上高 : 震災の影響からの回復が早まり期初予想を上回るも、対前年比1.0%減少
- 営業利益 : 主に金型償却費負担の軽減から営業利益が増加(当期より償却方法変更)
- 当期純利益 : 昨年度の移転価格税制の影響(約21億円)がないことから増益

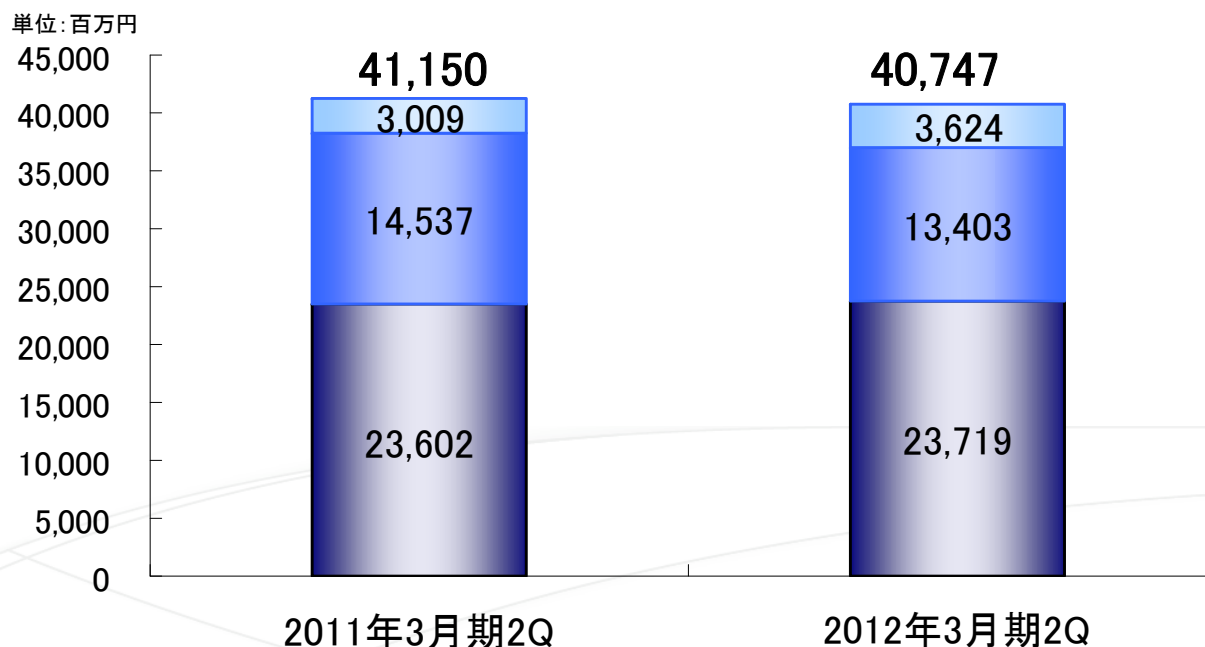
(単位:百万円)

	2011年3月期 第2四半期	2012年3月期 第2四半期	前期比		期初計画値
			増減額	増減率	
売上高	41,150	40,747	△ 403	-1.0%	39,000
営業利益	2,945	4,591	1,646	55.9%	3,600
経常利益	2,885	4,544	1,659	57.5%	4,000
当期純利益	△ 540	2,547	3,087	-	2,200
為替レート	83.82	76.63			

開発費	487	515	28	5.7%
設備投資額	1,894	2,735	841	44.4%
減価償却費	3,889	2,394	△ 1,495	-38.4%

事業別売上高

- プレス関連製品事業 : 国内の震災影響からの回復、北米市場の受注・売上は堅調な推移
- 定温物流関連事業 : 車両更新の先送り等の影響から需要低水準、受注台数の減少
- その他 : 設備向け産業用送風機、クリーンルーム用機器の受注増加

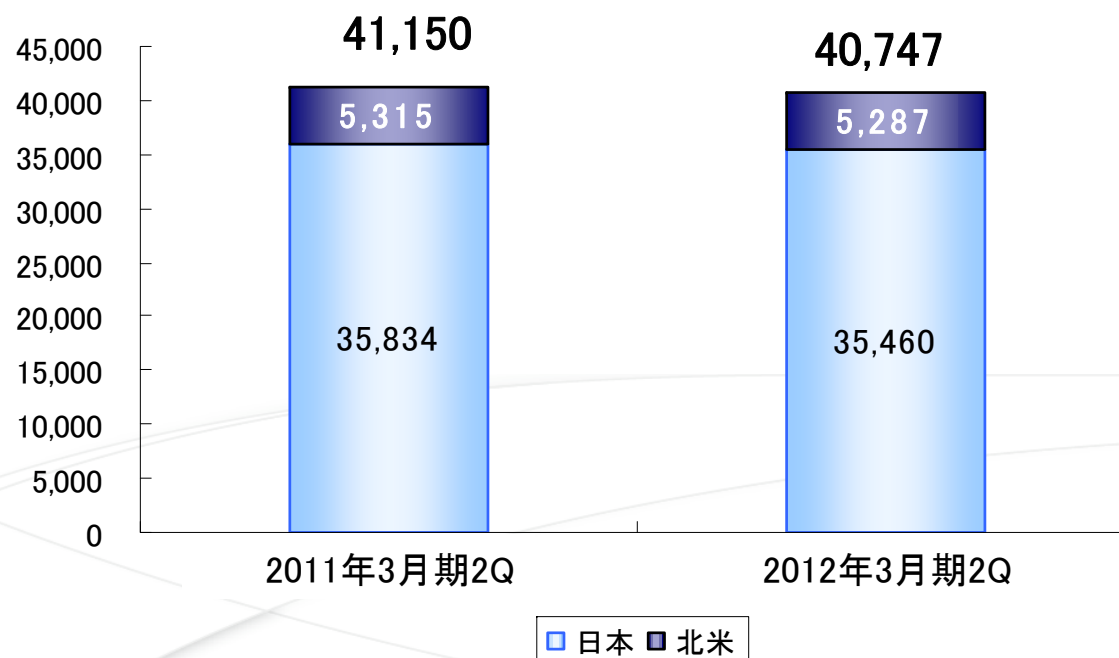


□ プレス関連製品事業 □ 定温物流関連事業 □ その他

地域別売上高

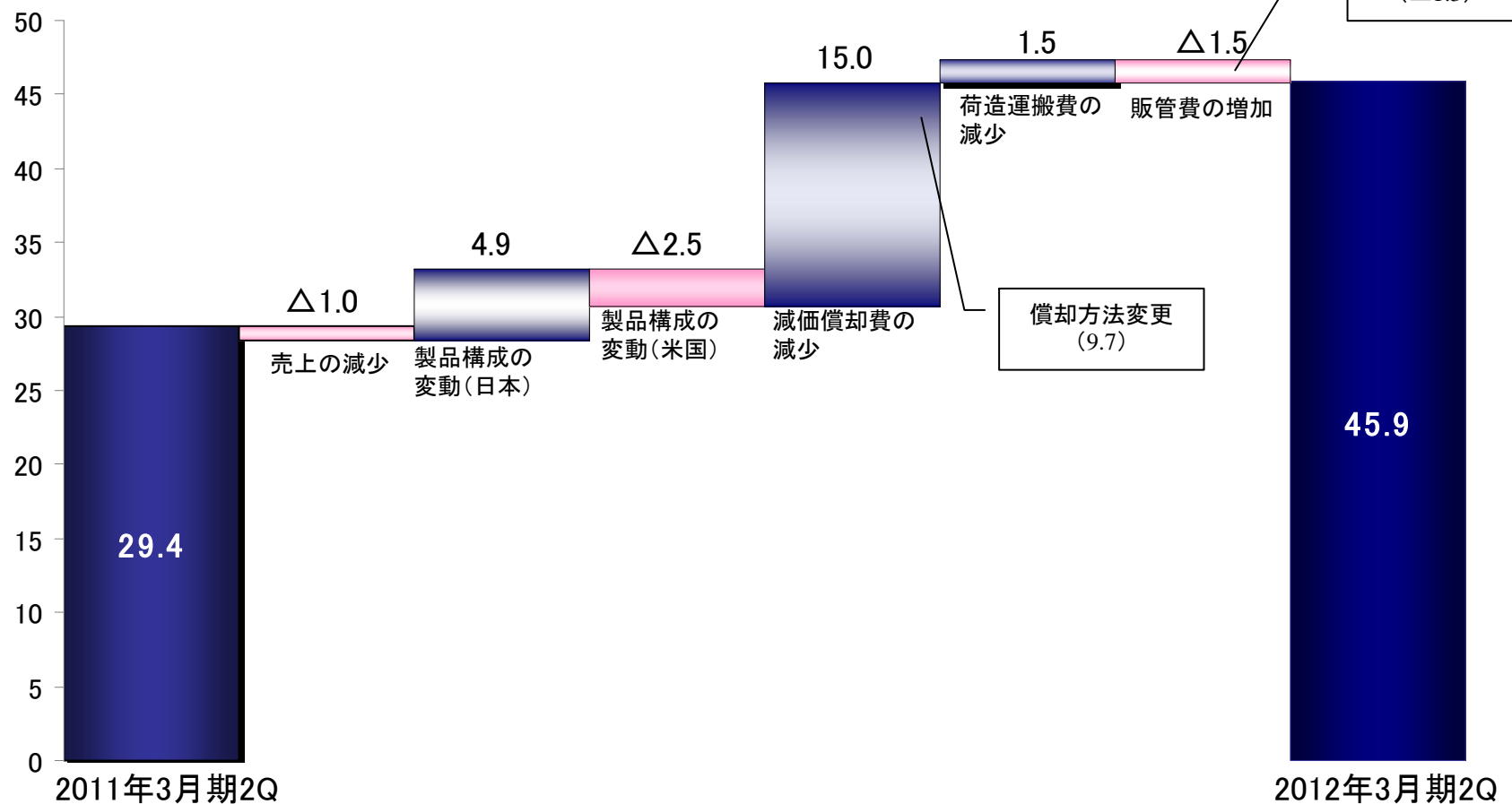
- 北米：自動車市場の回復、日本の震災影響による生産減が見られたものの全体的には堅調に推移
- 国内：震災の影響があるものの自動車生産の改善、その他事業(空調機器、電子機器部門)の売上増加が寄与し微減

単位：百万円

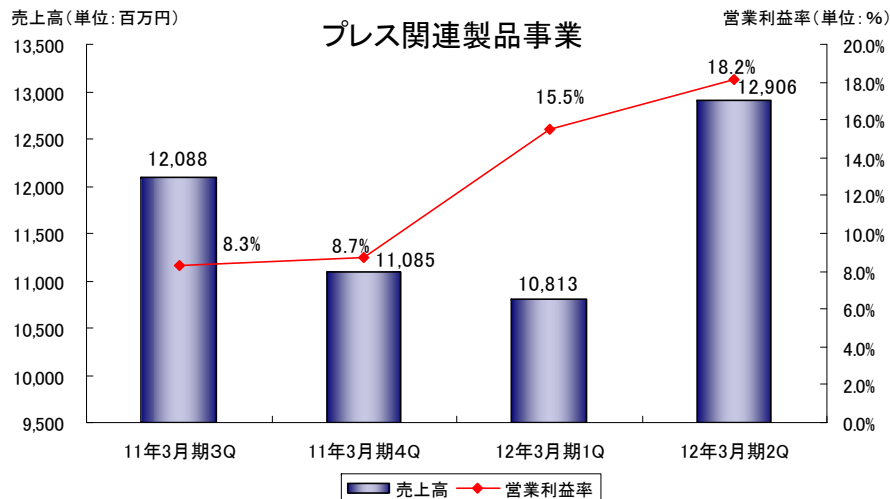


営業利益の増減要因

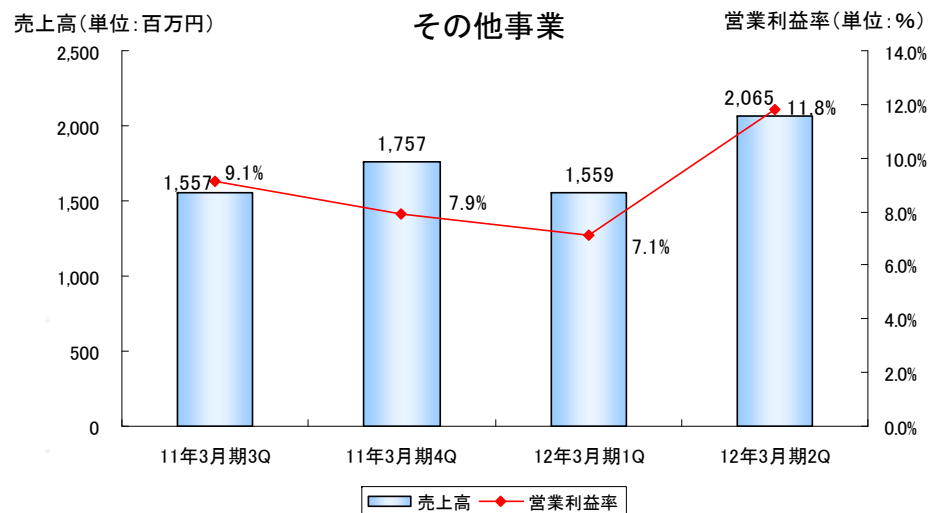
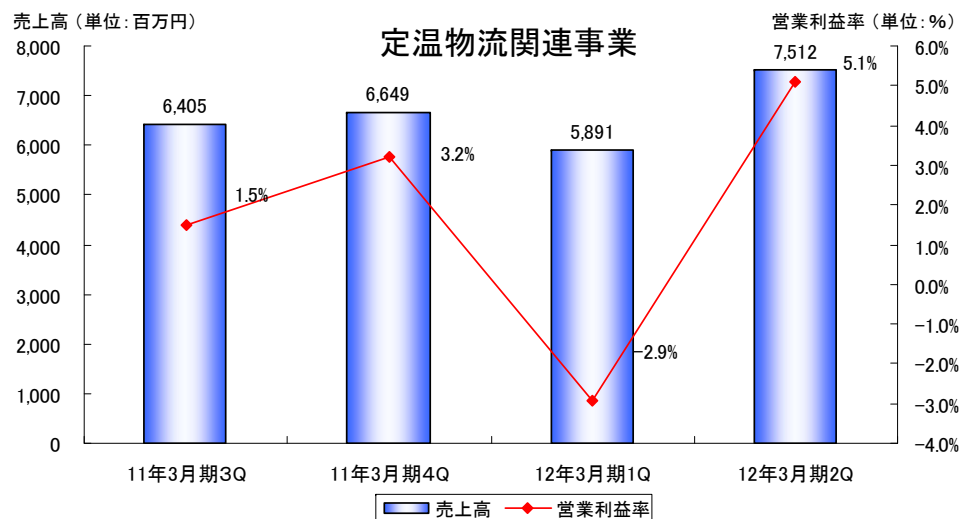
単位: 億円



売上高・営業利益率四半期推移(事業)



- プレス関連製品事業は震災の影響で1Qは厳しかったが2Q急回復。金型償却費減少により利益率好転
- 定温物流関連は1Qは震災の影響により受注・生産低迷、需要低水準に推移し、競争激化
- その他事業の1Qは利益率低下したが、受注・生産の伸張に伴い回復



注: ①事業別合算値(連結調整前)
 ②その他事業は空調機器、電子機器、表面処理事業等

連結貸借対照表要約

(単位:百万円)

	2011年3月期	2012年3月期2Q
現金同等物	10,154	12,675
売上債権	16,713	19,187
有価証券	15,304	12,992
棚卸資産	6,178	7,254
その他流動資産	2,462	3,377
固定資産	38,312	38,283
資産合計	89,122	93,768

(単位:百万円)

	2011年3月期	2012年3月期2Q
有利子負債	2,730	2,416
その他負債	22,176	25,410
純資産	64,216	65,942
負債純資産合計	89,122	93,768

キャッシュ・フロー

(単位:百万円)

	2011年3月期2Q	2012年3月期2Q
営業キャッシュ・フロー	2,640	3,811
投資キャッシュ・フロー	△ 641	△ 2,964
設備投資	△ 1,660	△ 2,747
財務キャッシュ・フロー	△ 794	△ 739
現金及び現金同等物の期末残高	13,955	20,698

2012年3月期通期業績見通し

取締役総務人事部長兼IR室長 露木 好則

事業環境について

欧米先進国経済の回復基調に陰りがみえ、減速要因が増えつつある

新興国経済は続伸、中国の成長ペース若干鈍化も、自動車市場は拡大

国内は、高止まりする円相場、タイ洪水影響により経済の先行きに不透明感

国内の消費マインドは回復しつつも、冬場の電力不足への懸念などにより予断を許さない

業界動向について

■ プレス関連製品事業

- サプライチェーンの復旧、電力制限解除 ⇒ 生産の回復、年度前半の巻き返し
- 国内外の自動車生産体制の再編
- 新興国市場での需要拡大に対応した生産体制のシフト、グローバル化の進行
- エコカー減税、自動車関連税制、消費税等の動向により需要に影響も

■ 定温物流関連事業

- 震災により、冷凍車更新需要停滞 ⇒ 再リース、更新時期の先送り
- 震災後の架装用シャーシ不足は、改善してきたが一部に玉不足
- ポスト新長期(排ガス規制)による車両更新 ⇒ 潜在需要
- トラック需要は、夏場以降徐々に回復

■ その他事業

- 空調機器 ⇒ 送風機、クリーンルーム用機器など産業用設備向け需要増
住宅着工は、停滞から消費マインドの持ち直しに拠り回復基調

通期業績予想

- 売上高 : 増収、震災の落ち込みからの回復早まり、期初計画からも上方修正。
タイの洪水影響は不透明
- 営業利益 : 増益、増収効果、利益率の高い製品売上比率増加、金型償却方法変更
(7.5億円/年)
- 当期純利益 : 前期計上の過年度法人税率等21億円の影響のないことから増益

(単位:百万円)

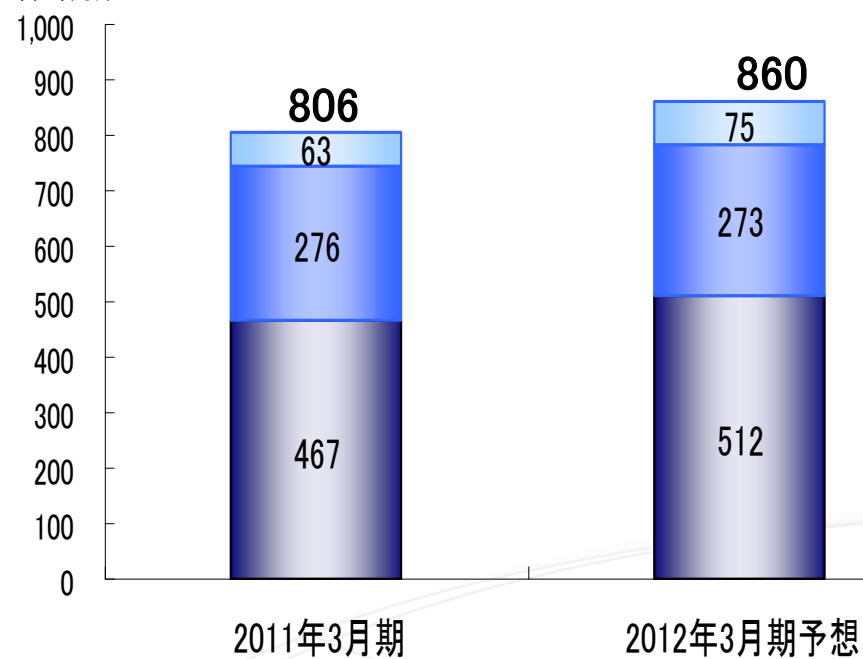
	2011年3月期 実績	2012年3月期 期初計画値	2012年3月期 修正値	前期比	
				増減額	増減率
売上高	80,689	83,000	86,000	5,311	6.6%
営業利益	5,501	8,000	9,000	3,499	63.6%
経常利益	5,586	8,500	9,200	3,614	64.7%
当期純利益	936	4,600	5,000	4,064	434.2%
為替レート	83.15	83.00	81.00	—	—

セグメント別売上高予想

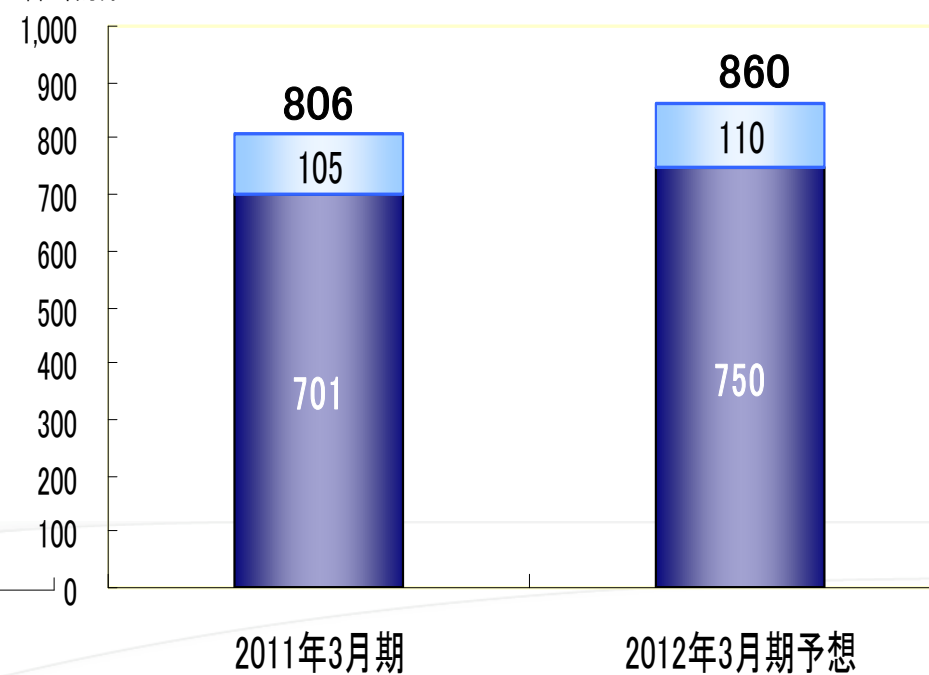
事業部別売上高

地域別別売上高

単位:百万円



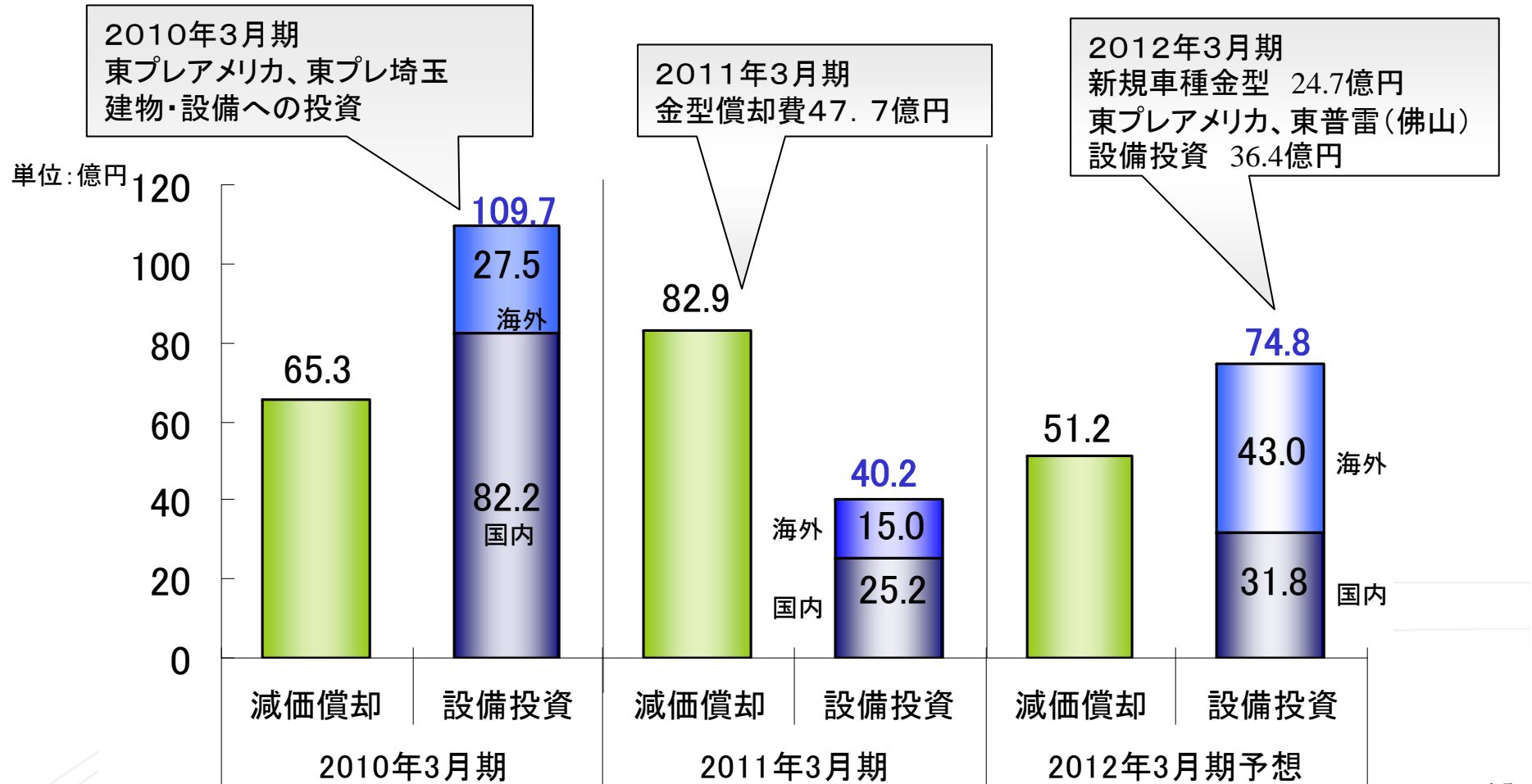
単位:百万円



□ プレス関連製品事業 □ 定温物流関連事業 □ その他

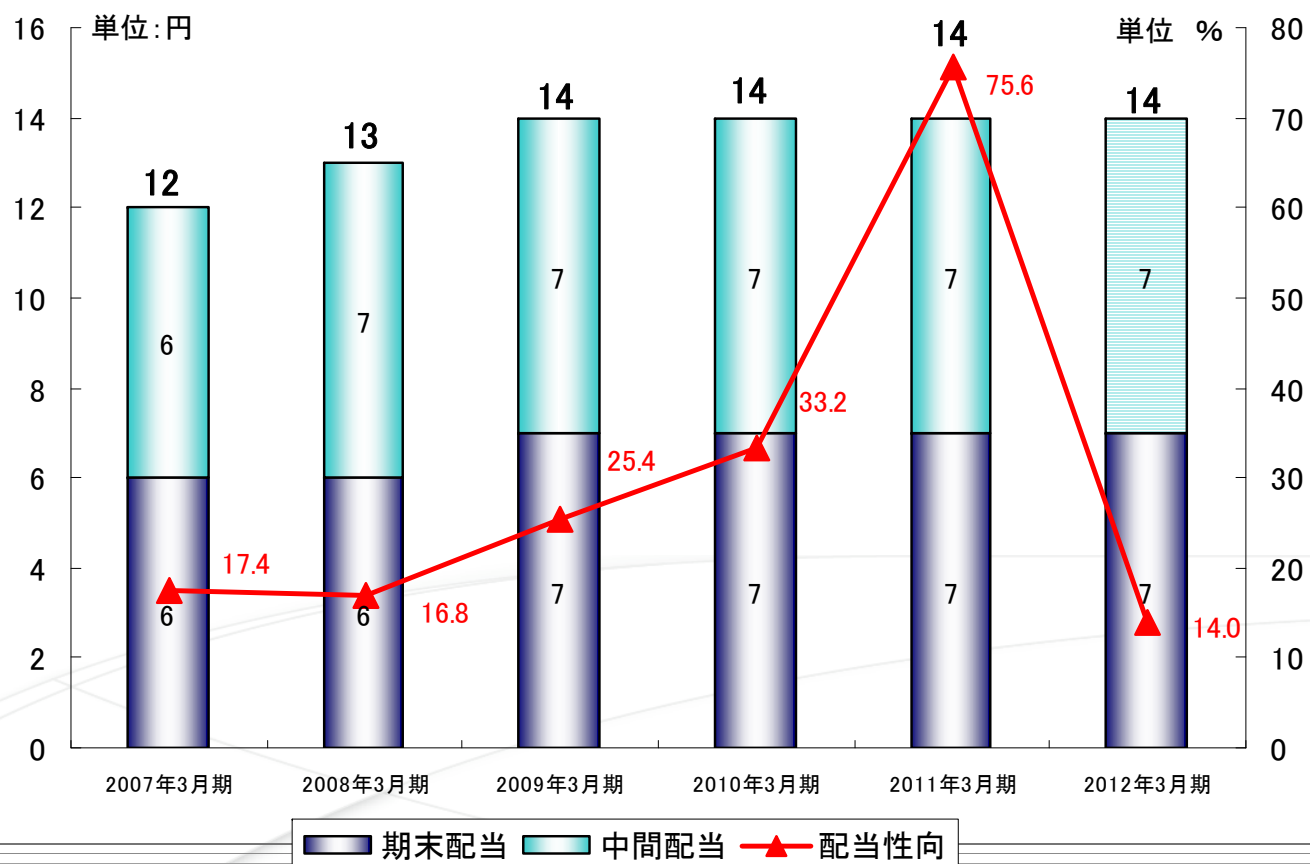
■ 日本 □ 北米

設備投資・減価償却費推移



株主還元

配当基本方針： 安定的かつ継続的な配当を実現すること



経営の取組について

常務取締役事業本部長 今井俊彦

今後の事業展開について

第12次中期経営計画

スローガン

新たな成長と体質強化

＜成長期の新興国市場と経済成熟期の日本市場の中で
東プレがおこなうべき戦略を明確にし、発展と生き残りを掛ける＞

2014年3月期売上目標
950億円

＜基本方針＞

(1) 国内・海外の 販売 生産戦略構築

目標値
海外売上比率 20%
(連結売上比)

(2) 新規創出

目標値
新規売上比率 20%
(連結売上比)

(3) コスト競争力強化

目標値
各部門にて掲げた合理化、
削減項目の遂行

海外生産拠点の強化・拡大

自動車メーカー各社の海外生産拡大に対応

- 東プレアメリカ第4次設備投資の立ち上げ
- メキシコ工場進出
- 東普雷(佛山)の立ち上げ
- 中国 湖北省へ第二工場進出

技術領域の拡大と新市場の拡大

- 超高強度ハイテン材(1470MPa)のボディ製品への市場投入
- ホットプレスの東プレアメリカへの展開
- 新領域への参入、バッテリーケース等

冷凍車

新製品の投入により商品性を高め、シェアをさらに高める

- 新型GBS……………アイドリングストップ時も冷却可能(当社独自)
- 新型冷凍装置……………高性能スクロールコンプレッサ搭載「XVシリーズ」発売
- 新冷媒加温装置……………2室それぞれ冷温・加温の独自制御が可能「RHシステム」
- 新型大型コンテナ……………軽量化、環境性向上(脱木・軽量化・保冷性能)

空調機器

新商品の拡大

- プラグファン ………………モーターとセット販売(性能保障、付加価値アップ)
- 住宅用換気システム……………効率化した全熱交換器搭載システムを提案

電子機器

新販路の拡大

- 組込型タッチパネル、キーボード「REALFORCE」

東プレアメリカ第4次設備投資

- アメリカ自動車市場が回復基調、南部の今後の自動車用プレス部品需要に対応
- 工場建屋増築、2500トン大型プレス機・関連設備の増強
- 2012年9月完成予定 投資額 約65億円(予定)



東プレアメリカ

メキシコ新工場進出

- 国内自動車メーカーの、メキシコでの生産拡大に対応
会社設立、工場用地取得調査中(具体的な案件は選定中)
会社設立 2012年2月予定、工場稼動開始2014年1月予定

(工場計画)

敷地面積 60,000㎡程度
 建物 20,000㎡程度
 投資金額 約40億円(予定)
 売上 2016年3月期 40億円(予定)



進出先周辺地図

中国第二工場

- 湖北省に設立予定(中国内陸部の自動車生産の拡大、東普雷(佛山)の生産負荷増に対応)

会社設立 2012年4月予定、工場稼働開始2014年1月予定

(工場計画)

敷地面積	約100,000㎡(60,000㎡)	()は東普雷(佛山)
建物	約30,000㎡(18,000㎡)	
投資金額	約50億円(予定)	
売上	2015年3月期 25億円~35億円(稼働開始初年度)	



進出先周辺地図

東普雷(佛山)汽車部件有限公司

- 2012年6月量産納入開始に向けた、試作イベントを継続中
- 2013年3月期より売上に寄与



東普雷(佛山)

① 燃費基準・CO2排出規制の強化

●各国規制値

日本： 新燃費基準	(2020年度目標値 20.3km/リッター	:2009年度実績値に対し25%向上)
米国： 燃費規制	(2025年度目標値 23.2km/リッター	:現在の実績値に対しほぼ倍増)
EU： CO2排出量規制	(2020年度目標 95g/km	:現在の実績値に対し40%向上)
中国： 燃費規制	(2008年度から段階的に適用開始中	:規制値は日欧米よりも緩い)

●燃費向上手段

ボディ軽量化(超高強度材料・軽量材料の適用)

次世代車(ハイブリッド車、プラグインハイブリッド車、電気自動車)の増加

② 衝突安全性能の強化

●衝突安全性能規制

米国： ルーフ圧壊強度の強化	(2012年)
新オフセット衝突試験の導入	(2012年導入見込み)

●ボディ強度向上手段

超高強度材料の適用



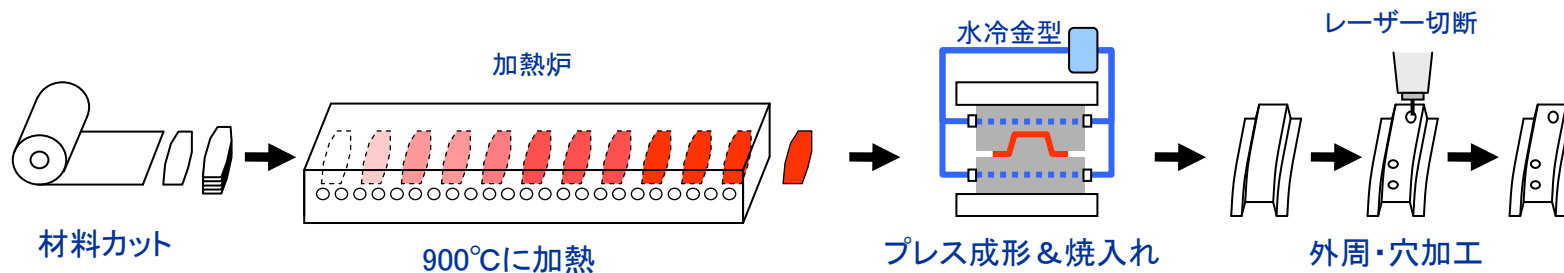
ルーフ圧壊試験、新オフセット試験案(出典 IIHS)

今後10年で自動車ボディを30%軽量化するニーズ有り、特にアメリカ市場ではニーズ大
⇒ (1) 更なる超高強度材料を適用した高強度・軽量化製品の開発

増加する次世代車での特有部品(大型バッテリー関連製品)への参入
⇒ (2) 新規部品バッテリーケースの開発提案

ホットスタンプ製1470MPa級ボディ製品

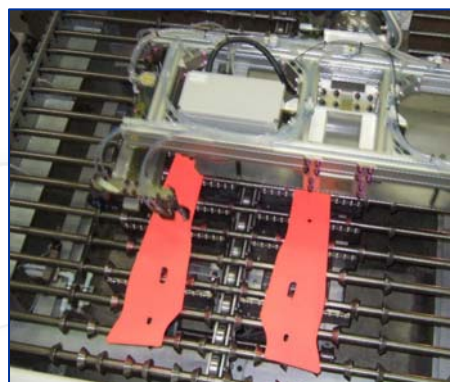
- ホットスタンプ成形技術（プレス成形と同時に金型内で焼入れ熱処理を行なうハイブリッド工法）を開発
- 自動車ボディ製品として世界最高の1470MPa級強度の製品を量産化



ホットスタンプ工法概略



ホットスタンプ量産設備



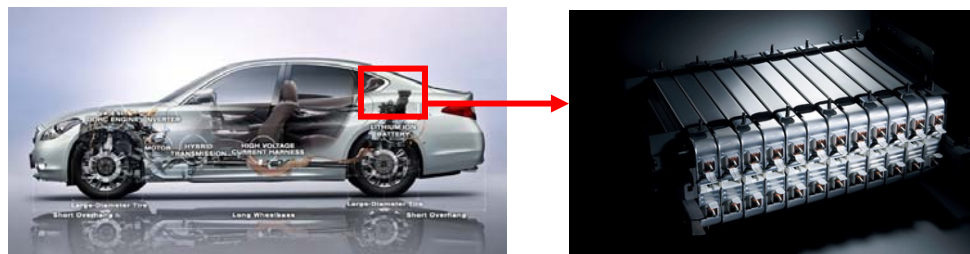
生産状況



量産製品例

大型バッテリー収納用ケース

- ハイブリッド車・電気自動車で使用されるリチウムイオン電池バッテリーシステムを収納するケース
- 箱型形状のバッテリーを効率良く収納し、且つバッテリー保護するために高強度を有する筐体を製作



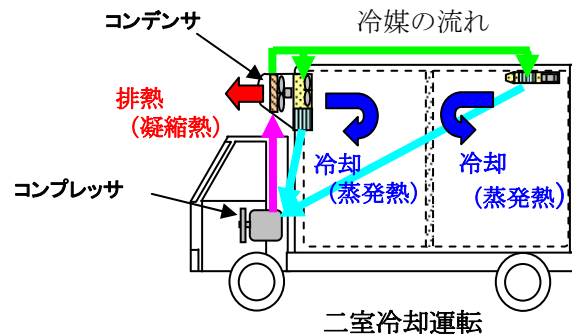
日産フーガ ハイブリッドのリチウムイオン電池
(出典 日産ホームページ)



次世代車用バッテリーケース量産製品例

加温の必要性

- 冷やすだけではない、商品の運搬・搬送
 - ・ 冷凍／チルド品と弁当類との同時配送
 - ・ 店内運搬時の商品結露防止
 - ・ 商品積み込み時の結露防止
 - ・ 一定温度管理が必要な医薬品等の配送



二室冷媒加温システム
の温調切替形態

新冷媒加温装置 RHシステム

- 二室同時連続運転が可能
- 各室独立制御
- 正確な温度制御を実現
- 故障率軽減

